

# 別海町歴史文化遺産「旧国鉄標津線上春別駅跡」について

令和2年11月 別海町教育委員会生涯学習課

## 1 物件の概要

本物件は、1963(昭和38)年に国鉄標津線に駅員無配置駅として設置され、1989(平成元)年4月30日に廃止された駅の跡である。鉄筋コンクリートと古レールで作られた簡易ホームが一部現存し、床板の大きさは幅約2m、長さ約30mである。別海町本別76番19に所在する。



写真1 旧国鉄標津線上春別駅跡現況

## 2 上春別駅開業の経緯

国鉄標津線西春別・計根別駅間に上春別駅が開業したのは、標津線の全線が開通した1937(昭和12)年から四半世紀が過ぎた1963年のことであった。

別海村(当時)北西部にある常盤地区の住民は、鉄道が近くにあるのに計根別まで行かないと汽車に乗れず、高校通学等不便を感じていたことから、「鉄道管理部」(釧路鉄道管理局か)に乗降場建設嘆願書を提出した。10戸から8万円の寄附を集め、近隣の地区にも協力を求めて、計15万円を別海村役場に寄附した。国鉄側もこの要望に応え、1963年7月1日に上春別駅が開業した。



写真2 1980年頃の上春別駅

## 3 上春別駅跡の現況について

1989年のJR標津線廃止後も、上春別駅の簡易ホームは撤去されずに残されたが、草木に覆われて放置された状況であった。2020(令和2)年、別海町役場商工観光課に所属する地域おこし協力隊員が中心となり、樹木の伐採や草刈りなどの整備が行われ、駅名標も復元された。

潜在化していた文化財が整備によって顕在化した好例であり、鉄道ファンの注目度も高く、今後見学者の増加が期待される。



写真3 復元された駅名標

## 参考文献

- 北大鉄道研究会『混合列車』No.19(1990年)
- 『標津線の五十六年 彩雲鉄道』(1989年)
- 釧路鉄道管理局編『釧路鉄道管理局史』(1972年)
- 大成50年誌編纂委員会『大成50年誌 みちのり』(1980年)※写真2出典68頁。
- 「旧上春別駅を観光地に」『北海道新聞』2020年7月21日付(道東面)